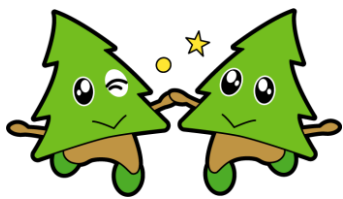


あきたスギッチファンド通信



No. 17 2014年5月7日発行

特定非営利活動法人
あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp

<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

平成26年度の開始に当たって

スギッチファンドが設立されてから5年が経過しました。この5年間を総括してみますと、頂いた寄付金の総額は、約2,521万円に上ります。他方、助成金として支給した団体は159団体、金額は4,008万円になります。県をはじめ、多くの皆様のご支援、ご協力により、5年間どうにか運営してこられました。

この5年間で最も頑張ったのは、一昨年認定NPO法人格の取得でした。国税庁の審査が厳しかったものですから、取得できた時の喜びは一入でした。しかし、認定NPO法人になれば何か劇的に変わるという期待が大きかったのですが、今のところこれを活かしていないのが現実で、これからの課題であると考えております。

今年度から県の補助金のあり方が変わりますが、県の補助金がいくらか継続されることになり、激変は幾分緩和され、一先ずほっとしているところです。設立当初からファンドとして自立できるようにしっかり運営するという課題は見えていましたが、現実これに対処できずにきてしまいました。

あきたスギッチファンドは民設民営の市民ファンドとしては全国的にも数少ない成功例として高く評価されております。この評価を裏切ることなく、今年度も多くの方にファンドの意義を伝えて参りますので、皆様の一層のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

総会報告

平成26年度総会が4月14日15時30分からパーティギャラリー・イヤタカ（秋田市中通6丁目）に於いて開催されました。司会者（高城憲子 NPO 法人秋田県南NPOセンター事務局長）が正会員213名中、出席者34名、委任状86名で会議は成立した旨を告げ、開会しました。

次に理事長が、あきたスギッチファンドが設立から5年を経過し、寄付金額が総額で約2500万円に達し、159の団体を支援してきた、この実績が民設民営の市民ファンドの成功例として全国的に評価されているが、現実にはファンドとして自立できる状態にはない、今後も多くの方にファンドの意義を伝えて前進していきたいので、一層のご支援ご協力をお願いしたいと挨拶をしました。

続いて議長に高堂裕氏を選出し、早速審議に入りました。

平成25年度事業報告、活動計算報告、監査報告が事務局から説明され、丸の内くるみ氏から「事業報告書にある寄付金募集の事業のそれぞれの金額が、決算報告のどこに入っているのかがこの報告書ではよくわからない」と質問があり、事務局からは「個人からの寄付もあり、事業で得た寄付金があるまま決算書と対比されてはいない。今年度の報告からはできるだけわかるようにする」と答えました。議長が第1号議案、第2号議案を一括して承認を求めたところ、満場異議なくこれらを承認可決しました。

第3号議案、平成26年度事業計画（案）、ならびに第4号議案、平成26年度活動予算（案）について、それぞれ事務局が資料に基づき説明をしました。26年度の新しい事業としては、

秋田県が力を入れているコミュニティビジネス立ち上げ支援事業に協力し、その募集、公開審査を受託することです。佐々木茂美氏からは、「平成26年度の事業活動の目的の一つに会員増強が掲げられているが、従来会員でありながら会費を納めていない人がいると、新しい会員増強にも支障が出る。定款にも2年以上会費を滞納した場合には会員の資格を喪失することになっている。未収を回収する努力が必要」との意見がありました。これに対して理事長は「その点をきちんと整理しながら会員増強に努めたい」と答えました。議長が第3号議案、第4号議案を一括して承認を求めたところ、満場異議なくこれらを承認可決しました。

(25年度事業報告、活動計算書、26年度事業計画、活動予算を参照)

今年度は役員改選の年に当たっており、次のように役員を選任案が提案され、承認されました。

理事

(敬称略)

		氏名	住所			氏名	住所
1	再任	阿部 和夫	湯沢市	9	再任	佐々木茂美	秋田市
2	再任	石田 光子	大館市	10	再任	佐藤 裕之	秋田市
3	再任	伊勢 昌弘	秋田市	11	再任	塩田 充弘	横手市
4	再任	飼田 一之	横手市	12	再任	清水 昭徳	三種町
5	再任	北嶋 正	秋田市	13	再任	菅原 展子	秋田市
6	再任	児玉 大平	秋田市	14	再任	高堂 裕	秋田市
7	再任	小板橋広吉	鹿角市	15	再任	丹 すみ子	湯沢市
8	再任	根田 昌治	大仙市	16	再任	中村 昭一	横手市

(退任 千田謙蔵、進藤史明、寺田俊夫、三浦貴裕)

監事

(敬称略)

1	再任	高井 宏司	秋田市
2	新任	石川 昭作	秋田市

(退任 千田邦宏)

続いて、本年度は運営委員改選の年に当たっており、理事会に於いて次のように選任されたと報告がありました。

運営委員

(敬称略)

		氏名	住所			氏名	住所
1	再任	湯元 巖	秋田市	8	再任	高城 憲子	横手市
2	再任	根田 昌治	大仙市	9	再任	松村 栄一	秋田市
3	再任	清水 昭徳	三種町	10	再任	藤原 絹子	秋田市
4	再任	児玉 大平	秋田市	11	再任	畠山 順子	秋田市
5	再任	菅原 展子	秋田市	12	再任	高杉 静子	秋田市
6	再任	谷川 都子	横手市	13	新任	柿崎 博美	秋田市
7	再任	菅原 賢一	横手市	14	新任	長井 洋子	大館市

(退任 三浦貴裕、高橋信子、和田成達)

また今年度は選考委員改選の年ではありませんが、欠員が生じたため、理事会において次の方を選考委員に選任したことが報告されました。

(敬称略)

新任 長澤 美知子 秋田市 (任期は平成27年3月31日まで)
 (退任 北林真知子)

以上により総会の全日程を終了しました。

総会終了後、同じ会場で秋田商工会議所会頭三浦廣巳氏による講演会が開催されました。

これからは秋田の時代

講師 秋田商工会議所
会頭 三浦 廣巳氏

秋田には、農業中心のコミュニティ意識からくる、みんな仲良く、人と違ったことをしないという現状がある。この習慣を打破しなければならない。世の中は変化している。やってみなければ分からない。リスクをとることが大事。挑戦して失敗してもその行動を評価すべきだ。失敗は成功への一里塚である。夢を持って生きる、リスクテークして困難に立ち向かう、そのような大人の生き方こそが、子供を育てていく。

秋田は極東ロシア、延邊朝鮮自治州へ近く、位置的に優位性を持っている。秋田港の強みを活かして、現在経済交流を強めている。また、秋田は再生エネルギーに可能性がある。まさに、これからは秋田の時代である。

エネルギッシュな、明るい未来の到来を思わせる三浦氏のご講演に、大いに勇気づけられました。秋田の経済界から投げられたボールを、ぜひ市民セクターもキャッチして、共に“これからは秋田の時代”に向けて頑張っていきたいと思いました。

お知らせ

◎ コミュニティビジネス立ち上げ支援事業募集

募集期間 4月7日～5月16日
公開審査会 6月8日(日) 会場：遊学舎

◎ 助成事業募集

第11回あきたスギッチファンド助成事業

本ファンド 10万円×4 30万円×4

冠ファンド 東日本大震災三国こども支援ファンド

10万円×2 30万円×2

冠ファンド ダイードリンコ株式会社(自殺予防)

30万円×1

東日本大震災避難者支援応援ファンド

10万円×2 30万円×3

募集期間 5月10日～6月10日

審査会 7月13日(日)

◎ 助成事業報告会 7月26日(土) 第8回～第9回助成事業